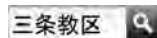


三条教区通信

第 67 号

発行日 2013年1月1日
 発行者 三条教務所長 鷲尾 幸雄
 発行所 真宗大谷派三条教務所
 〒955-0071 三条市本町2丁目1-57
 E-mail: sanjo@higashihonganji.or.jp
 ホームページ: www.gobosama.net



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

三条教務所・三条別院職員一同

今月の法語

[法語カレンダーより]

ねんぶつ

念仏とは

じこ

自己を

はっけん

発見することである

金子大榮 1881年～1976年

東日本大震災三条教区災害救援金

皆様にご協力いただいております三条教区独自の救援金は、2012年12月27日現在、総額13,322,677円となりました。

これまでの救援金寄託状況は以下のとおりです。

2,000,000円 東京教区 2012年2月14日

10,000,000円 仙台教区 2012年4月13日

ご報告いたしますとともに、ご協力の御礼を申し上げます。

教区御遠忌実行委員会

昨年11月30日、第2回三条教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌実行委員会(小林光紀委員長、楠雅丸副委員長、土田 隆副委員長)が開催され、各専門部会主査から、それぞれの専門部会で進められている教区御遠忌総計画策定のための具体的な作業について報告がなされました。

主な報告内容は以下のとおりです。

法要部会(關根大丘主査・教務所事務担当:藤村)

- ・ 教区御遠忌法要を機に別院に関わる人材発掘・育成をはかり、また、組単位の協力を得ることにより組内寺院の関係づくりが促されることを期待する(御遠忌までに2回ある別院報恩講で基盤づくりを行う)。
- ・ 法要期間について、答申にある「三昼夜」により、約4,200名の団体参拝者(1座平均700人[本堂の収容人数]×日中・速夜合計6座。1ヶ寺平均10人×70ヶ寺×6座)を受け入れることができる。これが基本ラインであると確認したが、日中・速夜間で700人の入れ替えを行う体制を整えるのが困難なこと、すべての人に等しく法話・お齋・帰敬式等の機会に会ってもらうことができなくなること、また、半日参拝は慌しく、引率者・受入スタッフの負担が倍増することなどの問題から、別院報恩講団参のように、余裕ある日程で1日参拝をしてもらうため、五昼夜が望ましいという結論に至った。
- ・ 音楽法要を別院の報恩講同様に1日目の午前中に取り入れる。
- ・ その他、参堂列、同朋唱和等についても組み込む。

教化部会(渡邊 学主査・教務所事務担当:森)

- ・ 教化事業については、教区御遠忌の単発事業で終わることなく、継続性を持たせ、教化重点施策を盛り込んだ取り組みとする。
- ・ 三条教区教化センターについて、里村主幹より、教化について、また、教化センター設立の願いについて話を聞いた上、センター運営のあり方について協議検討していく。
- ・ 御遠忌基本理念「宗祖としての親鸞聖人に会う」に則り、住職・寺族・門徒・一般にむけた研修・講座などを計画、実施していく。
- ・ 子ども御遠忌(子ども報恩講)については、青少年研修会三部門を中心に取り組む予定(2014

年10月開催を検討中)。

- ・ 旧教区御遠忌委員会からの引継教化事業である「住職研修会」「新任教師研修会」については、教区教化委員会の企画委員会において継続することを前提に協議を続ける。
- ・ 御遠忌前年2014年中に同朋大会(帰敬式も併せて)を開催する予定。

別院整備部会(大野成一主査・教務所事務担当:藤波)

- ・ 公正な仕様と工費による整備事業の遂行を迫るため、設計監理会社を入れて事業を進める。
- ・ 答申で確認されている「将来において大きな問題となることを防ぐ範囲の工事内容を基本に」について、まず、整備の基盤となる建物の躯体並びに土台について、一級建築士に見てもらった上で意見聴取をし、大きな問題がないことを再確認した。
- ・ 各研修会、会議、外部への会場貸しなど、年間375件以上の同朋会館の使用状況(整備部会調べ)から、旧御堂を研修会場等として使用していく必要があることを確認した。
- ・ 旧御堂の活用方法に関して、古い建物として趣を保存してほしい、ブックカフェ的な空間がほしいなどの意見を聞いている。
- ・ 今後、改修仕様の決定に向け、建物の機能・利用法の確認、法宝物・仏具の点検、バリアフリー(トイレ含む)改修程度の決定等について作業を進める。

募財部会(楠 雅丸主査・教務所事務担当:加田岡)

- ・ 2012年12月末までに募財奨励チラシ第一弾を配布する。
- ・ 御遠忌懇志金完納記念品(寺院分・門徒分)については設定せず、寺院への「完納証」のみ発行する。
- ・ 御遠忌御香儀記念五条袈裟の交付申請については、条件に達した段階で、その都度当該寺院へご案内する。
- ・ 今後、特別懇志とその記念品等の設定について検討する。

広報部会(渡邊智龍主査・教務所事務担当:五辻)

- ・ 広報の基本方針として、一般に「三条別院」の存在を知ってもらうことや、坊守、准坊守、当院等、寺族にも幅広く教区御遠忌を周知徹底することで、「知る→学ぶ→関わる」というつながりが広がることを意図した広報を行う。
- ・ 法要や記念事業等の期日や詳細が決まり次第、ポスター・チラシを数次にわたり作成・発行

していく。

- ・ 教区ホームページのトップ画面に御遠忌法要のフラッシュ画面を作成する。
- ・ 三条市ホームページから教区ホームページへリンクできるよう交渉する。
- ・ 別院フォーラムや御命日の集い、朝の人生講座等、既存の事業に御遠忌広報的要素を盛り込んでもらえるよう促進する。
- ・ 親鸞学会「親鸞となむの大地展」への関わりについては、必要に応じて正副主査が会合に立ち会うことから始めていきたい。
- ・ 御遠忌事業全体が把握できるような御遠忌総計画の広報誌を発行する。
- ・ 御遠忌通信を随時発行する。
- ・ 今後、広報スケジュールの策定、広報にかかる記念事業、東日本大震災復興支援に関する事業等や広報に関する外部団体の交渉について検討を行っていく。

上記各専門部会の報告内容は中間報告であり、今後変更される場合がありますことをご確認ください。

教区御遠忌、また各専門部会に関するご意見・ご質問は、教務所までお願いいたします。

教化委員会からのお知らせ

■ 秋安居報告

12月5、6の両日、本山安居本講の小谷信千代氏(大谷大学名誉教授)を講師に迎えて本年度の秋安居が開かれました。あいにくの荒天をおして参加した30人近くの人々が熱心に聴講する中、3週間にわたる本山の安居「世親浄土論の諸問題」で明らかになったこととして、親鸞聖人は果たして「現生往生」ということを説かれたか、ということを中心にご講義をいただきました。



先生は、まず「即得往生」ということが現世での往生を意味することにはならない、という点から、論を展開されました。研究史を整理されて、宗祖が現生往生を説いた、とする上田義文師や信楽峻磨師の考えを紹

介し、これに対する考えとして、櫻部建師の説をあげ、まさに目から鱗の論説で、自分もこの櫻部説に賛同される、とされました。

宗祖は、現世で正定聚の位にはつくが、往生するとは言っておられないとし、現生往生説の根拠とされる『一念多念文意』の「正定聚」に宗祖が施された左訓「往生すべき身と定まるなり」に注目され、現生で往生するのなら、さらに「往生すべき身」というのはおかしい、と説明されました。

では、なぜ宗祖が現生往生を説かれた、という誤解が生じたかということ、宗祖が尊敬しておられた曇鸞大師が般若経の立場から「現生往生」を説いておられるので、宗祖もきっと同じ考えだったに違いない、という思いこみから、この誤解が生じたのではないか、ということでした。

かつて岩波の「仏教辞典」の記述について西本願寺からクレームが出、朝日新聞「声」欄でも色々のやりとりがあったことを紹介され、曾我量深師は往生を「往って生まれる」と解されたが、往生のサンスクリット語 upapatti は「生まれ変わる」の意であるので、現生を終えた死後に「生まれ変わる」と解すべきだろう、とされました。そして、『末燈抄』に納められる有阿弥陀仏に宛てたお手紙の文に込められた宗祖の思いを、正しく素直に受け止めるべき、と説かれました。

ご講義の中で先生は、天親の別時意説、曇鸞の往生行等についても言及されたのですが、中心は「現生往生」論で、学問研究として追求して至った見解と、教学あるいは信心という観点からの見解は、自ずから異なるものもある、とことわられたものの、従来の大谷派の往生観とは異なる結論の提示に、困惑される参加者も多く、休憩中の話題の中心でもありました。会の日程上、質疑の時間が十分にはとれないままの散会となり、参加者の未消化感は解消されないまま残ってしまいましたが、今後のさらなる論議の深まりが望まれるところです。

11組願興寺衆徒 中島義紘

■ 准坊守の集い報告

11月20日火曜日、三条別院・三条教務所にて「准坊守の集い」が開催されました。



三条教区には何人の准坊守の方がおられるのかも分からず、いったい何人の参加者があるのか不安ではありましたが、小さなお子さんをご一緒の方、わざわざお仕事の有休をとって参加の方などもおられ、当日は23名のご参加がありました。

今回は、第1回目ということで昼食の後に、諸殿拝観と茶話会を兼ねた班別座談会が中心の内容でした。

諸殿拝観は寒い中でしたが、三条別院の歴史なども説明いただき普段は足を踏み入れない書院なども観させていただきました。



座談会は、教区坊守会長の草間あつ子さんから最初にお話をいただき、その後、3班に分かれて座談会となりました。

座談会は各班とも大変活発な意見交換があり、次回はどんな会にしたいかの希望や、日ごろ考えていることも多く語られ、この会を持った意義が感じられました。

お聞きしてみると、今回のご案内が直接は准坊守さんの手元に届かなかった方もおられて、それは残念に思いました。

次回の予定は未定ですが、今回より多くの方に参加いただき「准坊守の集い」がより参加したい会に、また自主的な会に発展していくことを願っております。

第13組万休寺坊守 田中ひとみ

■ 宮城県亙理町からのお礼状披露

昨年10月22日、「差別と真宗」交流学习会Ⅱにて、三条仏青有志会の参加スタッフ、現地復興支援センタースタッフのご協力のもと、宮城県亙理町吉田で炊き出しを開催させていただきました(詳しくは『教区通信』65号1面・66号4面の報告記事)。その時に撮影した写真を浜吉田東区長様宛にお送り致しましたところ、教務所宛にお礼状をご送付いただきましたので、ここにご披露させていただきます。

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、先日は見ず知らずの私達 浜吉田東区民に有り難いご温情をお与えくださり東区民一同たいへんよろこんでおります。遠く離れた地より、東本願寺

めさん そろっと参ろうて！ —私を新発見—

ゆかりの皆様方に、寺泊の紅ズワイガニのカニ汁、佐渡棚田のコシヒカリ、銘酒の越乃寒梅など全国的に知られる食材にて、炊き出しをして頂き、また念珠作りも同時開催して頂きましてかさねて御礼申し上げます。

大震災前は120世帯ありましたが、現在80世帯の居住です。

今、地区では復旧復興に向けてたくさんの人達が頑張っており、真最中であります。

海が近くなって恐怖感すらあった、砂浜海岸堤防工事も本格的にはじまっております。

災害に強いまちづくりに向けて、大津波を第一線でふさぐ海岸堤防、防災緑地の整備、農地の整備、近くて安全な避難場所の確保など、優れた環境を将来にわたって健全に保ち、森と海に抱かれた地域を夢みる今日この頃です。

夢に向かって、大震災直後の混乱期を振り返りながら、皆様方の献身的な奮闘ぶりを思い出し、浜吉田東区民と共に、出来ることから頑張りたいと思います。

最後になりましたが、皆様方のますますのご活躍とご健勝祈念いたしまして、御礼いたします。

追伸 写真有難うございました。関係者に配ります。

平成24年12月吉日 山田 勇

この度の「差別と真宗」交流学習会Ⅱの活動に際しまして、お米や野菜、その他支援物資をお寄せ頂きました皆様に改めて感謝申し上げます。

「差別と真宗」共学研修会部門

- ◆講師 佐々木 祐玄氏(15組 光善寺前住職)
- ◆参加費 5,000円(宿泊費・食費含む)
- ◆問合せ 三条教務所(担当:森)

教務所からのお知らせ

◎ラジオ放送「東本願寺の時間」について

宗派が1951年11月よりラジオ伝道として放送している「東本願寺の時間」について、吉運堂様のご提供により、新潟県でもお聞きいただけます。

○講師 1/1～1/7 里雄康意宗務総長

1/8～2/16 木ノ下秀俊氏(仙台教区)

*2/17～3/30 大桑 齊 大谷大学名誉教授

*3/31～5/11 木越祐馨(能登教区)

(変更になる場合があります)

*の期間は「教如上人」をテーマとし、教如上人四百回忌のコンセプトである①教如上人の事跡の顕彰、②東本願寺創設の祖としての位置づけ、③真宗大谷派なる宗教的精神の確認について、上人の人物像や教化活動に焦点を当てたお話を解り易い言葉でお届けする予定です。

○放送局 BSN新潟放送

*新潟県全域をカバー

・小出エリア 1026KHz

・中越エリア 1062KHz

・下越エリア 1116KHz

・塩沢エリア 1485KHz

・上越エリア 1530KHz

○時間 毎週金曜日午前5:00～5:10

○提供 吉運堂様

◎教区行事予定表

2013年	
1/1(火)	三条別院修正会
1/7(月)	教務所事務初め
1/8(火)14:00	教区門徒戸数調査委員会小委員会
1/10(木)14:00	教化センター
1/17(木)14:00	教化センター
1/16(水)14:00	企画委員会(18日金曜から変更)
1/23(水)14:00	教区門徒戸数調査委員会
1/24(木)14:00	教化センター
2/14(木)14:00	企画委員会 教化センター
2/21(木)14:00	教化センター
2/28(木)14:00	教化センター
3/2(土)	～3日 真宗学院一泊研修
3/3(日)	～5日 児童指導者研修会
3/8(金)	「差別と真宗」共学研修会
3/12(火)	長岡地区坊守研修会 ～13日 教区推進員前期教習
3/14(木)	教化センター

研修会のご案内

■ 教学研究会

開催案内後送

- ◆日時 2013年3月1日(金)～2日(土)
- ◆会場 三条教区同朋会館
- ◆講師 三木 彰円氏(大谷大学准教授)
- ◆内容 『教行信証』信巻
- ◆参加費 500円
- ◆問合せ 三条教務所(担当:森)

■ 「差別と真宗」共学研修会

開催案内同封

- ◆日時 2013年3月8日(金)
- ◆会場 教区同朋会館
- ◆講師 山内 小夜子 解放運動推進本部員
- ◆テーマ 真宗教団と女性差別問題
- ◆その他 教師陞補に必要な受講書発行
- ◆問合せ 三条教務所(担当:藤波・藤村)まで。

■ 教区推進員前期教習

開催案内同封

- ◆日時 2013年3月12日(火)～13日(水)
- ◆会場 三条教区同朋会館

3/15(金)	企画委員会
3/27(水)	教区女性研修会
3/28(木)	教化センター
3/30(土)	真宗学院卒業式

* 行事日程(会場)重複防止の便宜上、教区・別院主催以外の行事が一部含まれています。また、日程は変更される場合があります。

所員のつばやき ~藤波法英~

三条教務所に勤めさせていただいてからもうじき一年半となる。おかげさまで教区内の研修会や様々な法要に参加させていただく機会に恵まれた。特に、三条別院での全戦争犠牲者追弔法会、末寺や組主催の法要など、今まであまり積極的になれなかった“戦争に関する集い”に呼んでいただいた▼しかし、教務所に努めたからといって人間が変わるわけではなく、参加したいと思う研修会や法要にはこちらの選びがあることにかえて気付かされる▼自己自身を見つめることが仏教であると聞かされれば一見耳障りのいい話だが、戦争に関する課題を与えられて掘り下げてゆくと自己の内なる暴力性が見えてくる。自己の暴力性を認めるとなるとさすがに目をつむりたくなるのだ▼今年の夏に出版された『戦争と科学者』(トマス・J・クローウェル著)の新潟日報の書籍紹介欄で「ヘリコプターを開発したシコルスキーは晩年、自分の発明が兵器として使われることを嘆き、救援に活躍した記事ばかりをスクラップしていた。機関銃を開発したガトリングは兵器の威力が増せば増すほど死傷者は減ると信じていた…中略…「文明が進めば進むほど、人間はどんどん卑劣になっていく」というある軍人の言葉が印象的だ。」と書かれていた▼その、ある軍人の言葉に私も大きくなずける。私がそれらの兵器を直接手にすることは無いとは思いますが、さるべき強縁のもよおせばいかなるふるまいもすべき身であることを念頭に保つならば、その言葉は人事とはならない▼この1年半で参加させていただいた“戦争に関する集い”とは、過去の戦争のことを問題にしているのではなく、進歩を求めてやまない私の危うさを教える集いであったと頂き直したい。

三条仏青有志会ボランティア

【三条仏青有志会】

仏青有志会は教区災害対策委員会と連携しながら東日本大震災で被災された方々の支援活動を行っています。活動に参加いただける方はご連絡ください。
連絡係 藤井信彰(14組長楽寺) shinsho@nct9.ne.jp

新潟親鸞学会からのお知らせ

おもてなしの心に切替えよう!

既報の通り、2014年4月26日～6月8日に開催される「親鸞となむの大地」展がらみで、県内外から多くの巡拝者が県内を訪れることとなります。

例えば、どこから情報を得たのか、名鉄観光サービス本社(東京)が「親鸞となむの大地」展見学を真宗寺院向け団体旅行のプランとして全社あげて進めます、と11月に連絡をしてきました。すでにJTBや近畿ツーリストも東京本社が当会事務局へ挨拶に来ています。

いままでとかく県民は、「新潟なんか来てもらっても、見るところないワネ」とへりくだってきました。親鸞聖人の御旧跡がたくさんあるにもかかわらず、案内しようとしてこなかったのです。お寺は本山や関東・北陸へ出かけることはあっても、足元を忘れ、おもてなしの精神に欠けていました。せつかくの共同教化のチャンスを見逃していたのです。今回、全国から来る御同朋御同行をどのようにお迎えするのか、そのお待ち受け体制を早急に整える必要があります。

「(仮)親鸞聖人越後御旧跡奉賛会」が発足します

上のような状況を受け、12月6日新潟の超願寺で「(仮)親鸞聖人越後御旧跡奉賛会」発起人会が開かれました。これには「親鸞となむの大地」展実行委員会の呼び掛けに応じて、県内上越方面の御旧跡寺院を含む5ヶ寺が参集しました。種々協議の結果、次のように結成総会を開いて県内ご旧跡寺院のネットワークを構築することが申しあわれました。

「(仮)親鸞聖人越後御旧跡奉賛会」立ち上げ総会

日時 2013年2月26日(火)15:00～

会場 赤倉ホテル/妙高市赤倉486

参加費 宿泊¥10,000-、夕食まで¥6,000-、

会議のみ¥1,000-

参加者 30名(予定)

関心のある方は事務局(武田 0250-62-2676・廣橋 0250-67-2915)までご連絡ください。

皆さまのご理解とご支援を、こころよりお願い申し上げます。

【親鸞学会入会の申し込み・お問い合わせ】

新潟親鸞学会事務局 担当 富沢慶栄
〒951-8061 新潟市中央区西堀通二番町783 超願寺内
☎025-222-2820 FAX 025-222-2830

Eメール choganji@nifty.com

新潟親鸞学会デスク(ブログ):

<http://niigata-shinran.cocolog-nifty.com/blog/>